

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年 9月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000147		
法人名	社会福祉法人 甲有会		
事業所名	グループホーム ロココ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市宝山町7-8-1		
自己評価作成日	平成27年 8月19日	評価結果市町村受理日	平成27年11月12日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成27年 8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>特養、老健が同じ敷地にあることから、利用者の身体状態に合わせた転所が可能であること。グループホームは18名入所の小規模施設であるが、特養(110床)、老健(100床)のスケールメリットを活かしたイベントへ参加出来ること。パワーリハビリ等グループホームには無い資産の活用が出来ること。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホーム、介護老人保健施設に併設されたグループホームである。ホーム内は落ち着いた和風の佇まいの中、自然光の差し込む明るく清潔なフロアで、ゆったりとくつろげる生活空間が提供されている。地域の商店への買い物・近隣公園への散歩、地域行事への参加等、地域とつながりながらの生活の継続を支援している。複合施設の利点を活かして、パワーリハビリ等の設備の活用・施設内イベントへの参加・併設の施設・デイサービスの利用者との交流等を通して、生活の活性化が図られている。また、敷地内・館内・屋上等、歩行訓練や気分転換ができる環境があり、重度化した場合のバックアップ体制の整備にもなっている。定期的・計画的な研修・委員会活動・人事考課制度等により、職員の育成とサービスの質の向上に取り組んでいる。毎月のお便り・ブログ等でイベントや行事の様子を伝え、運営推進会議参加案内や行事・イベント開催案内を全家族に配布する等、家族と連携をとり共に利用者を支援できるように努めている。同建物内の診療所・併設施設の看護師と連携をとり、疾患・健康管理を行い、緊急時の対応も整備されている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>社是・経営理念・基本方針を1枚にまとめ、必ず目にする玄関・スタッフルーム・職員トイレに掲示。また職員の名札の裏にも入れている。理念が暗唱出来なければ正職員にならない。</p>	<p>法人全体で社是・運営理念・基本方針を共有し、方針を統一して取り組んでいる。基本方針には地域密着型サービスとしての意義・役割も盛り込まれている。誰もが見ることができる玄関・スタッフルームに掲示している。申し送り時に唱和し、さらに名札の裏にも理念を明示して常に意識して支援に取り組むようにしている。また、新入職者の研修時に理念について理解すると共に、現任職員も合同研修会で理念についてさらに理解を深める機会を設けている。日々利用者について話し合う中でも理念に立ち戻り、理念を生かした支援に取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>夏祭り等地域行事への参加、近隣商店街への買い物や近隣公園への散歩をしたり、見学の受け入れを随時行っている。克明校区介護事業所11事業所が集まった「こくめいケアネット」の一員として「認知症サポーター養成講座」を年1回開催している。</p>	<p>地域の商店への買い物・近隣公園への散歩等、地域との日常的なつながりを持ちながら地域で暮らし続けることができるように努めている。夏祭り・秋祭り等地域行事に利用者と共に参加し、地域住民との交流の機会の継続を支援している。ボランティア来訪時やイベントへの参加を通して、併設の施設・デイサービスの利用者とも交流が持っている。「こくめいケアネット」に参加し「認知症サポーター養成講座」を開催し、事業所の機能を活かして地域貢献に努めている。外部からの見学や介護相談員も受け入れている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議での告知又はポスティングにより 認知症予防体操・パワーリハビリ体験等に参加いただいている</p>		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年6回開催し、利用者、家族や相談員の意見に耳を傾けている。</p>	<p>地域の商店への買い物・近隣公園への散歩等、地域との日常的なつながりを持ちながら地域で暮らし続けることができるように努めている。夏祭り・秋祭り等地域行事に利用者と共に参加し、地域住民との交流の機会の継続を支援している。ボランティア来訪時やイベントへの参加を通して、併設の施設・デイサービスの利用者とも交流が持っている。「こくめいケアネット」に参加し「認知症サポーター養成講座」を開催し、事業所の機能を活かして地域貢献に努めている。外部からの見学や介護相談員も受け入れている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>豊中市役所や中央包括支援センターに運営推進会議の参加を求めている。</p>	<p>運営推進会議への市高齢施策課の職員の出席により、事業所の現状や取組みの理解につなげている。年4回の事業所連絡会・地域施設連絡会でも、市との交流の機会に職員の参加があり、グループホーム全体の現状を含めて情報交換している。相談・報告が必要な場合は適宜電話で行い指導・助言を受けると共に、課題発生時にも相談・助言を受けサービス提供がスムーズに行えるように努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>入職時の研修に『身体拘束』に関する課目を取り入れ、毎年定期研修も実施している。併設特養での「身体拘束ゼロ推進委員会会議」にも参加している。</p>	<p>年間の研修計画に盛り込んで本部研修で年2回、身体拘束廃止に関して定期的に学ぶ機会を設け、全職員に拘束をしないケアの周知徹底に取り組んでいる。身体拘束委員会を月に1回開催し、拘束を行わずに事故を予防し安全を確保するケアについて話し合っている。家族には、契約時に身体拘束しない方針について説明を行い理解と了解を得ている。各ユニットの玄関は施錠せず、ユニット間を自由に移動できる開放的な環境にある。離設の事例がありエレベーターはカードでの操作となっているが、外出したい気配があれば、職員が同行し閉塞感を感じられないように配慮している。</p>	

7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入職時の研修に『高齢者虐待』に関する課目を取り入れこの研修を受けなければ現場に出ることが出来ないルールを実施している。併設特養での「身体拘束ゼロ推進委員会会議」にも参加している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>資料を閲覧できるようにそろえている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族と入居契約の場を設け、契約書・重要事項説明書の内容を直接伝えている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、苦情があれば報告書を掲示している。</p>	<p>家族の面会が多く、来訪された家族には、管理者・職員から積極的に声かけを行い、意見・要望・苦情等を述べやすいように働きかけている。また運営推進会議参加案内や行事・イベント開催案内を全家族に配布し、意見等を聞く機会を多く設けられるように努めている。毎月のお便り・ブログ等で、イベントや行事の様子を伝え、意見等が出やすいように取り組んでいる。玄関には意見箱を設置している。職員が家族の要望・意見を聞いた場合は、管理者に苦情報告書で報告すると共に、連絡帳に記載して共有している。検討が必要な内容についてはカンファレンスを開き検討を行い、サービスや運営への反映につなげるようにしている。検討結果は家族にも報告している。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニットごとに連絡ノートを置き、利用者に関する申し送りとともに意見を記入してもらっている。毎日14時から昼礼として2ユニット合同の申し送りを実施している。毎月の各ユニット会議でも意見を挙げてもらっている。</p>	<p>日々の申し送り・随時のカンファレンス・月1回のユニット会議とリーダー会議・各種委員会等、職員が意見や提案を出し合って話し合い、管理者が把握する機会を多く設けている。人事考課制度を導入し、年2回の個人面談でも、職員が意見・提案を述べる機会がある。施設長もほぼ毎日来訪し、職員と交流している。また、管理者評価制度・ダイレクトライン等、職員が運営者に意見を表す仕組み作りもされている。法人内の職員異動はあるが、馴染みの関係を大切に考え最小限にとどめ、長いスパンで定着している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>契約更新時や賞与考査時に評価シートを記入している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回ユニットごとにスタッフミーティング（ユニット会議）を開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>協議会の定例会議に参加したり、入居希望者や空き情報交換を行っている。「こくめいケアネット」参加事業所間での情報交換、施設間見学等交流の場としている。</p>		
<p>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問面接を行い、本人や家族に見学に来ていただいている。</p>		

16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問面接を行い、本人や家族に見学に来ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や他施設の担当者から話を聞き、入居直後は1時間ごとの記録を1週間つけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・掃除・洗濯などの生活動作も手伝っていただき、自立支援を目指している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出を気軽に行っている。月に1度のイベントにも参加を呼び掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方の面会も受け入れている。	契約時の基本情報で、馴染みの人や場所についての情報の把握に努め、新しい情報は申し送りや情報共有している。利用者の知人・友人の訪問は家族の了解の下受け入れ、関係継続ができるように支援している。利用者の外出希望は家族の協力を得て、馴染みの場所に出かけられるように支援している。複合施設の利点を生かし、ボランティアの受け入れやイベント参加時に、併設施設利用の利用者との以前からの馴染みの関係や新しい馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間。洗濯物をたたんだり、CD・カラオケに合わせて歌を歌うなど、同じことが出来る時間を作っている。		

22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後の相談にのり、希望があれば併設特養の入所申込を受け付けている。</p>		
----	--	---	---	--	--

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前の面接で聞き取りを行い「私の歴史シート・暮らし方シート」などに記入してもらっている。入所直後には細やかに行動を観察し記録している。</p>	<p>入居時に家族に「私の歴史シート」への記入を依頼し、また、面接時に面談シートに基づいて聞き取りを行い、利用者・家族の思い・意向の把握に努めている。入居後は、日々のコミュニケーションの中で、思いや意向の把握に努め、申し送りノートや経過記録に記載し共有を図っている。自ら思いや意向の表出が困難な利用者については、職員が利用者の表情や反応を見逃さないように意識して把握に努めている。</p>	
----	---	---	---	--	--

24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>家族や他に利用されている施設の担当職員から話を聞いている。</p>		
----	--	--	--------------------------------------	--	--

25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>家族や他に利用されている施設の担当職員から話を聞いている。</p>		
----	--	--	--------------------------------------	--	--

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居前面接で本人、家族の意向を伺う。以後は現状に合わせたプランを作成し、家族に提示している。</p>	<p>入居前の面接時の家族からの聞き取りや「私の歴史シート」・「家族へのアンケート」からの情報をまとめアセスメント用紙に記録している。介護計画は、計画作成担当者が利用者・家族の意向・希望を聴取して個別具体的な施設サービス計画書を作成している。計画書の具体的サービス内容に沿って利用者への支援を行い、介護記録に支援の内容・結果・生活の様子等を記載している。短期目標の中から重点項目を抽出し、計画作成担当者がモニタリングを実施している。3ヶ月毎にカンファレンスを実施し、ニーズについて家族や主治医・職員の意見を聞き、現状に即した介護計画の見直しを行っている。変更内容は申し送りで伝達し共有している。</p>	<p>モニタリングについては、短期目標に挙げられた項目全体について実施されることが望まれる。また、職員参画の下、計画に基づいたサービスの実施状況が明確になり、モニタリングの根拠となるような記録の工夫が望まれる。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアチェック表や介護記録をつけている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設施設の機器やキャラバンを活用することで、運動したり、大勢で外出したりが可能である。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>介護相談員が毎月来設。利用者の様子をご覧になり、意見を聞かせていただいている。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>同じ建物内にある診療 所から隔週に訪問診療 を受けている。</p>	<p>契約時に利用者・家族の 意向を把握し、希望する 医療機関で受診できるよ うに支援している。同建 物内の診療所の内科医の 往診が2週に1回あり、利 用者の疾患・健康管理が 行われている。家族が受 診に同行する場合は、利 用者の状態を記載したサ マリーを提供している。 また、診療所での診療報 告は直接家族へ報告され ている。利用者の身体的 な変化・様子は職員が 「個人往診記録表」に記 載し医師に報告を行うと 共に、往診の結果や医師 の指示なども記載されて いる。敷地内の特別養護 老人ホームの看護師に いつでも相談できる体制が 整えられている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている</p>	<p>併設された特養施設の 看護師から異常時には 支援を受ける体制を整 えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。又は、そうした場合に備えて病 院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入所時に先方の病院へ 情報を提供している。 入院中は見舞いに行 き、様子を聞いてく る。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前面接で大まかな 意向を伺っている。併 設された特養への転所 を勧めることがある。</p>	<p>重度化・看取りに関する 方針を重要事項説明書の 退所の項で明文化して いる。契約時に看取りを行 わない方針を説明して、 同意を得ている。利用者 の状態の変化に応じて、 家族の意向を確認しなが ら、共同生活が困難な状 態になれば併設の特別養 護老人ホームへの住み替 えの提案等、情報提供を 行っている。</p>	

34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職時に研修を行っている。マニュアルを閲覧出来るように置いている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設された特養施設と合同で、消防訓練を実施している。(年2回・昼夜想定)</p>	<p>併設の特別養護老人ホームと合同で、定期的、計画的に年2回昼夜想定での避難・誘導訓練を行っている。年2回の訓練のうち1回は消防署立ち合いのもと、避難・誘導等の助言を受けている。また、出火場所想定での訓練や離脱時の対応訓練も事業所独自で行っている。利用者の状態の変化に伴い避難場所・方法を検討する必要性を感じている。非常災害時の地域との協力体制の整備には至っていない。備品の準備や備蓄を行っている。</p>	<p>日頃から地域住民との協力体制を整備し、また、運営推進会議の機会を活かして、非常災害時の協力体制整備への取り組みが望まれる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという尊敬の眼差しを常に持ちながら親しみを感じていただくよう心掛けている。個人情報保護やプライバシーについての研修も法人内で定期的に行っている。</p>	<p>プライバシー保護・個人情報保護についても、年間の合同研修計画に盛り込んで学ぶ機会を設け、周知徹底に取り組んでいる。日々のコミュニケーションやケアの中で人格を尊重した接遇ができるように、意識付けに努めている。お便りやブログへの写真の掲載については、契約時に説明を行い同意を得ている。個人情報等はユニットの書庫に保存し、適切な個人情報の管理を行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>お茶やおやつの中には希望を伺ったり、外出や入浴等は本人の意向を確かめる。</p>		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活という制約の中で、可能な限り本人のペースを最優先している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て、本人の望みに対応している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>テーブルを拭いたり食器を並べたり盛りつけをして、準備の段階から食事を楽しんでいた。</p>	<p>特別養護老人ホームの厨房で調理された食事の提供を受けている。ソフト食の対応も可能である。身体状況やその日の体調により、利用者が自発的にテーブルを拭いたり、盛り付けや食器の準備・後片付け等を、職員と一緒にやっている。食事レクリエーションで厨房から提供される食事を中止してバーベキュー等を行うこともある。おやつ作りや少人数での外食を楽しむ機会等も設けている。給食委員会で食事の検討を行い、利用者の好みや意見を献立に反映させる仕組みがある。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集會に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士による献立を提供している。水分量も1日1500mlを確保出来るように記録している。(身体的に制限のある人は除く)</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時と就寝時には職員が口腔ケアをしていただくようチェックしている。また訪問歯科への紹介も行っている。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>夜間も含め、排泄パターンを記録から読み取り、適切なタイミングでトイレの声掛けをしている。</p>	<p>ケアサービス管理表ですべての利用者の排泄状況を把握し、利用者一人一人のタイミングと方法で声掛け・誘導を行いトイレでの排泄を大切にしている。各利用者に適切な排泄用品を検討し、自立に向けた支援を行っている。排泄時の声かけ等、羞恥心やプライバシーに配慮している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取の確保とヨーグルトや食物繊維のおやつ等を提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>浴槽のまたぎが困難な利用者には2人対応での入浴やシャワー浴+足浴を楽しんでいただいている。</p>	<p>週2回は入浴できるように利用者の体調や希望に合わせて柔軟に対応し、気持ちよく入浴ができるように支援している。入浴を拒否される利用者には声かけや時間・入浴日・人を調整しながら入浴を勧めている。ADLの低下や拘縮により浴槽につかることが困難な場合は、二人介助やシャワー浴等に対応し、安全な支援を行っている。利用者の希望に応じて浴用剤を使用して、入浴を楽しめるようにもしている。同性介助を基本としている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居前から使用されている寝具を持ち込んでいただいている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者毎のケアチェック表に服薬している薬の内容一覧を綴じている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前面接で本人や家族から聞いたり、日々の会話から知るようになっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>季節や時期に合わせて出来る限り散歩や外気浴を行っている。イベントとして車でのドライブ外出も行っている。</p>	<p>日常的には、施設周辺・公園への散歩や、地域の商店に買い物に出かけることができるように支援している。2ユニットの廊下・特別養護老人ホーム館廊下・屋上等、広い施設空間を活用して自由に行き来し、歩行訓練や気分転換が図れるようにも工夫している。年1回程度、花見・空港への外出等、イベントとして外出を楽しむ機会も設けている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族から3,000円をお小遣いとして預かっている。散歩時の店先で買い物をする場合もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自ら行うことが困難な方へは、月に一度家族への近況報告を職員が記入している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の掃除を行っている。散歩の際の摘んできた花を飾ったり、手作りのカレンダーを壁に取り付けたりしている。</p>	<p>近代的な施設のホーム内は落ち着いた和風の佇まいになっている。廊下やリビング等、明るく清潔な共用空間に椅子やテーブル・テレビ等を配置している。壁面には季節毎の飾りつけを行い、落ち着いた環境である。リビングの一角の台所は利用所と共に食事の準備や後片付けができたり、食事の匂いや音が感じられる家庭的な環境である。テラスには、ガーデニングテーブルを設置して外気浴をしながらゆっくり過ごせる空間も整えられている。</p>	

53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには人数分のいすをテーブルのまわりに並べ、壁にはソファを置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットとエアコン、カーテン以外には本人のなじみのある家具を持ち込んでいただいている。	静かなゆったりとした居室は洗面台・クローゼット・エアコンが設置され、家族の協力を得て、使い慣れた家具や装飾品を持ち込み、落ち着いて安心して過ごせる居室づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には手すりを設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない